

その日、会場はクルマのジュエルケースになった

年間4戦で闘われる『SUPER CAR Rally Challenge 2010』の最終戦が開催され、我がROSSOから前総編集長・嶋田と私・齊藤敦子が初参戦。スタートとなるチネッタ川崎は早朝から色香を漂わせつつも凜とした、そんな空気で満ちていた。

E

Event

「ラリーに出るけど横に乗る。」
「私、地図読めませんけど……」

始まりは弊誌の前総編集長・嶋田とのそんな会話からだった。

そのラリーイベントとは『スーパーカー・ラリー・チャレンジ2010』。年間4戦、すでに軽井沢、清里、北海道を舞台に激しくも楽しい戦いが行なわれてきたシリーズ戦だ。

過去に同様のイベントでスタッフとしての参加経験を持つ私を見て、良くいえば「少年のココロ」を持つ嶋田の中の悪戯心がポコッと顔を覗かせるのは当然のこと。誰もが認める「方向音痴」の私に白羽の矢が立ったのだ。彼をそうさせたのはきつと「優しい先輩心」と「好奇心」。かくして私たちふたりは、少し紅葉が遅れていた11月21日の早朝、スタート地であるチネッタ川崎にいた。

その朝、チネッタに集まった参加車は52台。先導車となるチーム・タイサン（1996年式ベントレー・アズールをはじめ、ラリー出走車中最も古い1924年式のベントレー30、60年代のフェラーリ・デイトナから最新のフェラーリ458イタリア、EVのテスラまで、時代を彩る名車達が独特のオーラを放ち、その光景は街行く人たちの足を止め、彼らの好奇心をくすぐっていた。

9時30分。先導車を先頭に各車チネッタをスタート。カーナンバー6をもらった私たちもそれに続く。



早朝、ラリーのスタート地・チネッタ川崎に近づくにつれ「それらしいクルマ」の密度が濃くなった。参加者はそれぞれクルマと自身でトータルコーディネートしているからすぐに分かる。誰もがとても個性的でそこにははっきりとした主張がある。真剣に遊ぶ大人はどこまでもカッコいいのだ。クルマの持つオーラと参加者たちのパワーと眼差しは往來する人々の目をいやうなく惹きつけていた。



» The excellent car of the times runs in the public road.

二人一組で、細かなレギュレーションに沿って走るラリーでは、コドライブバリの誘導がカギとなる。しかし、前述したとおり私は地図が苦手なのだ。こんな私が主導権を握り、うまく嶋田を誘導できるのかしら？
かなり……不安……。

結果はすぐに明らかになった。数分後、私たちは全く違う場所に来たのだ。あまりにあっけなく道をはずした自分が情けない……。おまけに、数台の参加車が私たちの後ろをついてくるではないか。ああ嗚呼、みなさま本当にごめんなさい。

その後、カメラマンK氏と嶋田のサポートもあり、コースに復帰はしたものの、予定時間を大幅に超えてチエックポイントとなる箱根ターンパイクの頂上に到着。当然ほとんど参加車が通過した後だった。すでに時計はお昼をさしている。こうなったら早くお昼を食べるため、いや、遅れを取り戻すため先を急ごう。私たちは次のポイントとなる大磯プリンスホテルを目指し早々に箱根ターンパイクを後にした。

大磯では、昼食を含めた休憩時間と、PCと呼ばれるアトラクションが組み込まれていた。これは指定区間を指定タイムで走行し正確さを競うというもののだが、参加者たちの、程よい緊張感を浮かべてPCを楽しむ表情がとても印象的。嶋田もパイロンでのターンではチーム・タイサン（1996年式ベントレー）のモンディアルのリヤタイヤをスッと微妙に滑らせてクリアしながら「わはは」と喜んでた。

そしてこの日の昼食とPCを済ませれば、あとはゴールのチネッタを目指すのみ。途中立ち寄ったコンビニの駐車場で一瞬エンジンがかからないというトラブルに見舞われながら、ゴールのチネッタに到着したのは

藤敦子●文
Text by Atsuko Saito
藤浩之●写真
Photos by Hiroyuki Kondo

右も左も分からない! コドドライバーの迷走報告

「ラリーイベントってハードル高そう」なんて思っている人はいないだろうか。でも決してそんなことはない。そこで、今回がデビューとなるコドラ・齊藤のラリーな1日を追ってみた。



11:45:00
オープンバイクの頂上到着。事前に届いた情報によりギャラリ多数のためチェックはキャンセルに。



10:00:00
コマ図と格闘中。クルマはどんどん進むのに私の頭の中は超スローペース。この直後コースアウト。



09:30:00
カーナンバー順にスタート。ROSSO モンディアルはカーナンバー6。少ないギャラリーにドキドキ。



07:45:00
スタートまではだいぶ時間があるのでここでじっくりコマ図をチェック。ルートや時間を確認する。



08:00:00
ROSSOはチーム・タイサンとのモンディアル(右)で参加。隣のスーパーセブンは姉妹誌ディーポの取材車。



07:30:00
まずはエントリーの受付をしゼッケンや当日必要なものをもらう。これがないと何も始まらない。



12:15:00
大機に到着した時にはすでにこの状態。この後、嶋田が「わはは!!と喜んでたPCにトライした。



13:00:00
ようやくとどき着いたお昼ご飯。休憩中の各テーブルから和やかなクルマ談義が聞こえてきた。



13:45:00
昼食後は2度目のPC。1度目でコツを得たせいか動きやラインが確実に違うクルマが多かった。



14:10:00
大機を出たらあとはゴールのチネチッタ川崎を目指すのみ。クルマは少な快調順調気分爽快。



14:50:00
……と喜んだのも束の間。日曜ということもありすぐに渋滞にはまる。どうにもならぬ。



16:15:00
ゴールした後は施設内の趣味雑貨ショップ「タルガ・フロアリオ」のスポットカーでみんなワイワイ。



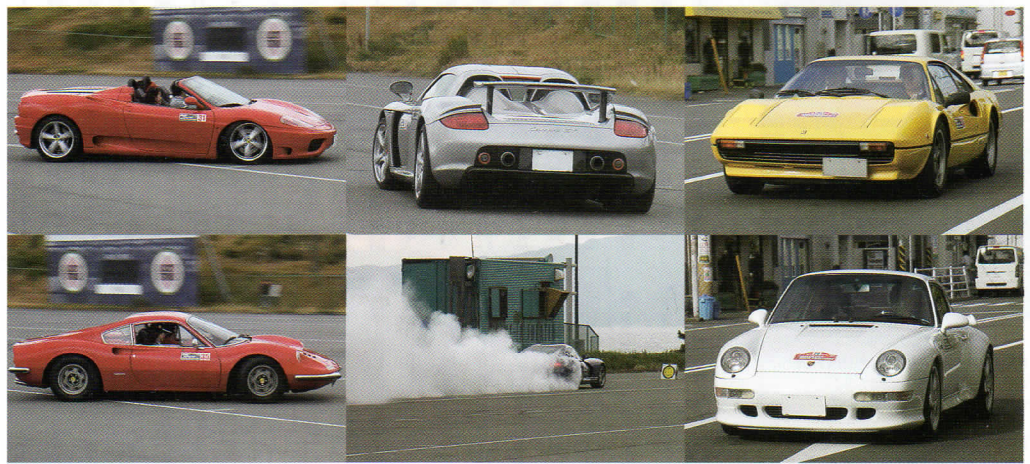
17:30:00
最後はヨーロッパアンリゾート風のレストラン「アリアッチ」でのパーティ。最後まで楽しめるイベントでした。



ラチッタデッラ
Phone 044-223-2333
http://lacittadella.co.jp
今回のスタートとなったエンタテイメント施設。イタリアをイメージした外観が美しい。



ARIA.C (アリアッチ)
Phone 044-221-7729
http://lacittadella.co.jp/
パーティ会場となったレストラン。明るい店内はカップルでも友達同士でも楽しめる。



大機プリンスホテルでは決められた区間を決められた秒数で走るPC(クロノメトリック・トライアル)が行なわれた。スタートラインから50mを5秒、パイロンを回り体勢を立て直して200mを16秒、130mを12秒という具合。ただしタイヤが止まるとペナルティが付く。ドライバーのテクニックとコドライバーの正確な計測と的確な指示が勝負を決めるのだ。



当日は高橋国光氏や篠塚建次郎氏などのゲストも多数登場。表彰式ではチーム・タイサンの子葉監督が卒園した幼稚園の小さな後輩達もかけつけ式を盛り上げてくれた。表彰式の後には豪華賞品がもらえるじゃんけん大会、最後はレストランでのパーティ、ラリー終了後も参加者たちをおおいに楽しませてくれた。

陽も傾きかけたころだった。夕刻のチネチッタでは、表彰式が行なわれ、その後は施設内にあるレストランでのパーティ。美味しい料理を堪能したうえ、当日来日したポルシェモータースポーツのウーヴェ・ブレッツテル氏をはじめとするゲストが登場するサプライズもあり、パーティは

「そつちじゃないよ!」
帰りの道、あたたかな気持ちに胸に抱え、カメラマンK氏と共に駐車場を目指して迷いなくズンズンと進む私にK氏がひと言。
「帰りに響いてきたのだった。」
「楽しみ方は人それぞれ。まずはみんなが同じ方向を見て楽しめば技術なんて二の次さ。彼の言葉はそんな風に響いてきたのだった。」
「おおいに盛り上がった。年間優勝を飾ったベアと話をする機会に恵まれたのだが、聞けば彼らは日々、勝つための努力を重ねているという。なんだか自分が同じ空間にいることが申し訳なくなってきた。でもその時ドライバーの方のひと言が私を元気にしてくれた。「始めたばかりの頃が一番楽しいですよ」♪楽しみ方は人それぞれ。まずはみんなが同じ方向を見て楽しめば技術なんて二の次さ。彼の言葉はそんな風に響いてきたのだった。」

